

STAR

融雪剤散布機

製品コード 93012

型 式-JUS 1820

取扱説明書

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社

このたびは、スター農機の融雪剤散布機をお買い求めいただき、まことに有難うございました。

JUS 1820は小型、軽量で取扱いに優れた高性能な融雪剤散布機です。

安全、快適にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

目 次

安全にお使いいただくために	1
各 部 の 名 称	2
エンジンをかける前の点検	4
エンジンの始動と停止	5
運 転 操 作	6
散 布 作 業	7
保守・点検 日常点検	8
定期点検	9
点検・整備と調整のしかた エンジン	10
本 体	15
給 油	18
長期保管について	19
電 気 配 線 図	19
主 要 諸 元	20
保証について	20
散 布 量 曲 線	21
ブロワタイプとスピナータイプの切り換え	22

安全にお使いいただくために

■ 安全運転の心得

安全運転はあなたのためです。次の事項には特に注意をはらい、事故のない快適な作業を行なってください。

- この取扱説明書を読み、正しい操作を十分御理解のうえ自分で操作してください。
- 簡単な操作でご使用できますが、まちがいをなく取扱う為に各種操作になれてください。

■ 作業前の注意

- 作業する時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。
- 公道での走行は行なわないでください。
- 車庫内など換気の悪い場所でエンジンを始動する時は、ガス中毒を起すことがありますので、換気に十分注意し、できるだけ早く車輛を外へ出してください。
- 燃料、エンジンオイルなどを点検、補給するときは、必ずエンジンを停めてください。
- 運転席以外で車輛を始動、運転することはやめてください。
- 運転者以外の者を車輛に乗せてはいけません。

【注意】 ステップに人や融雪剤等を乗せての走行は絶対しないでください。

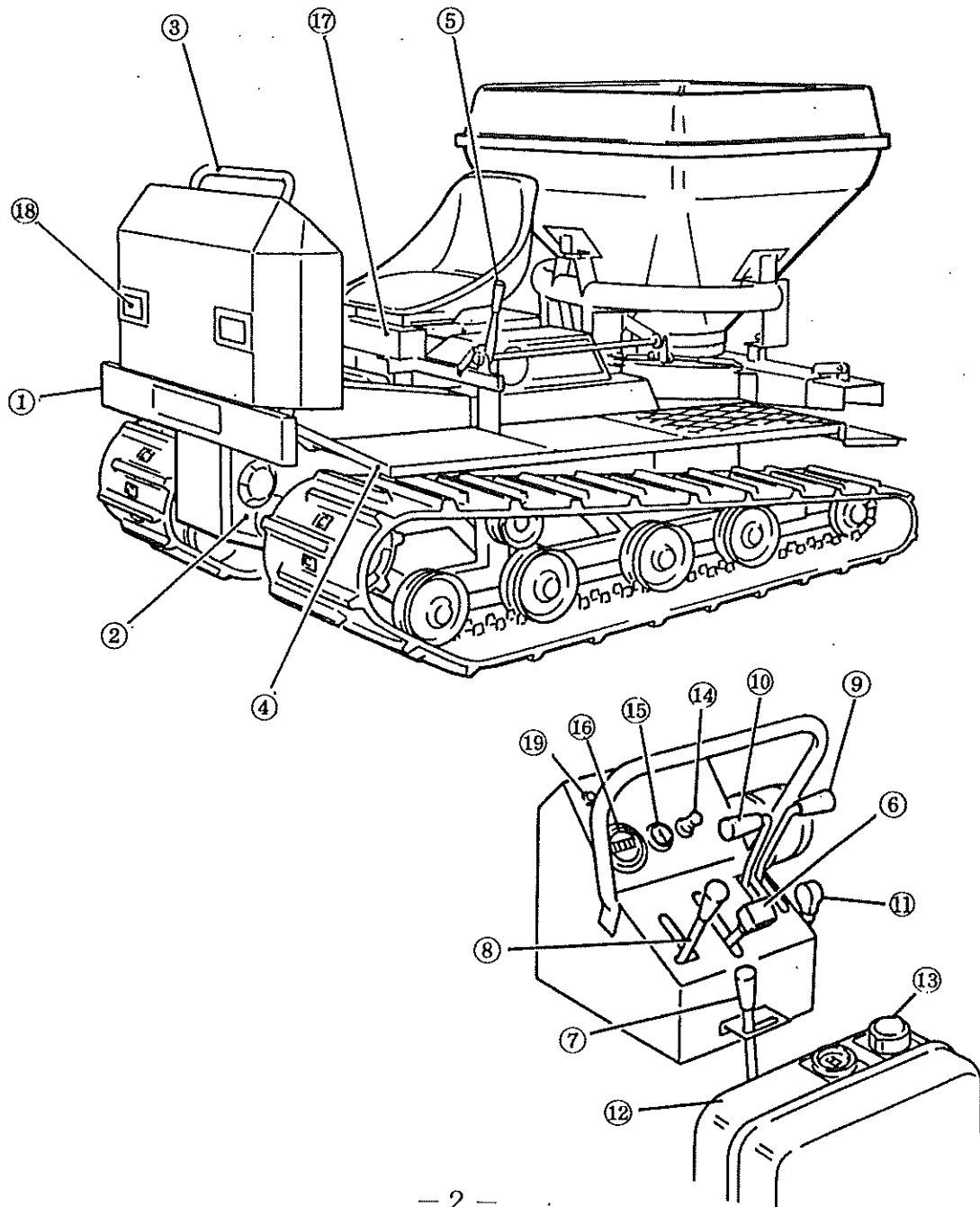
■ 駐車、停車時の注意

- 駐車するときは足場のよい平坦地を選んでください。やむをえず斜面に駐車しなければならない時は、斜面に直角に止め、エンジンを停止させ、チェンジレバーを前進又は、後退に入れ、走行クラッチレバーも「入」にしてください。
- 作業が終了してエンジンを停止させる場合は、燃料バルブも閉じてください。

各部の名称

- ① バンパー
- ② 走行ミッション
- ③ ハンドル
- ④ ステップ
- ⑤ シート
- ⑥ 変速レバー
- ⑦ 副変速レバー
- ⑧ 走行クラッチレバー

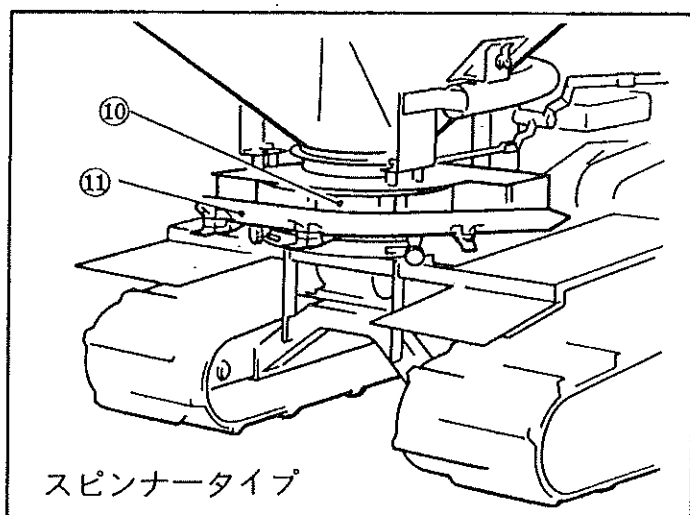
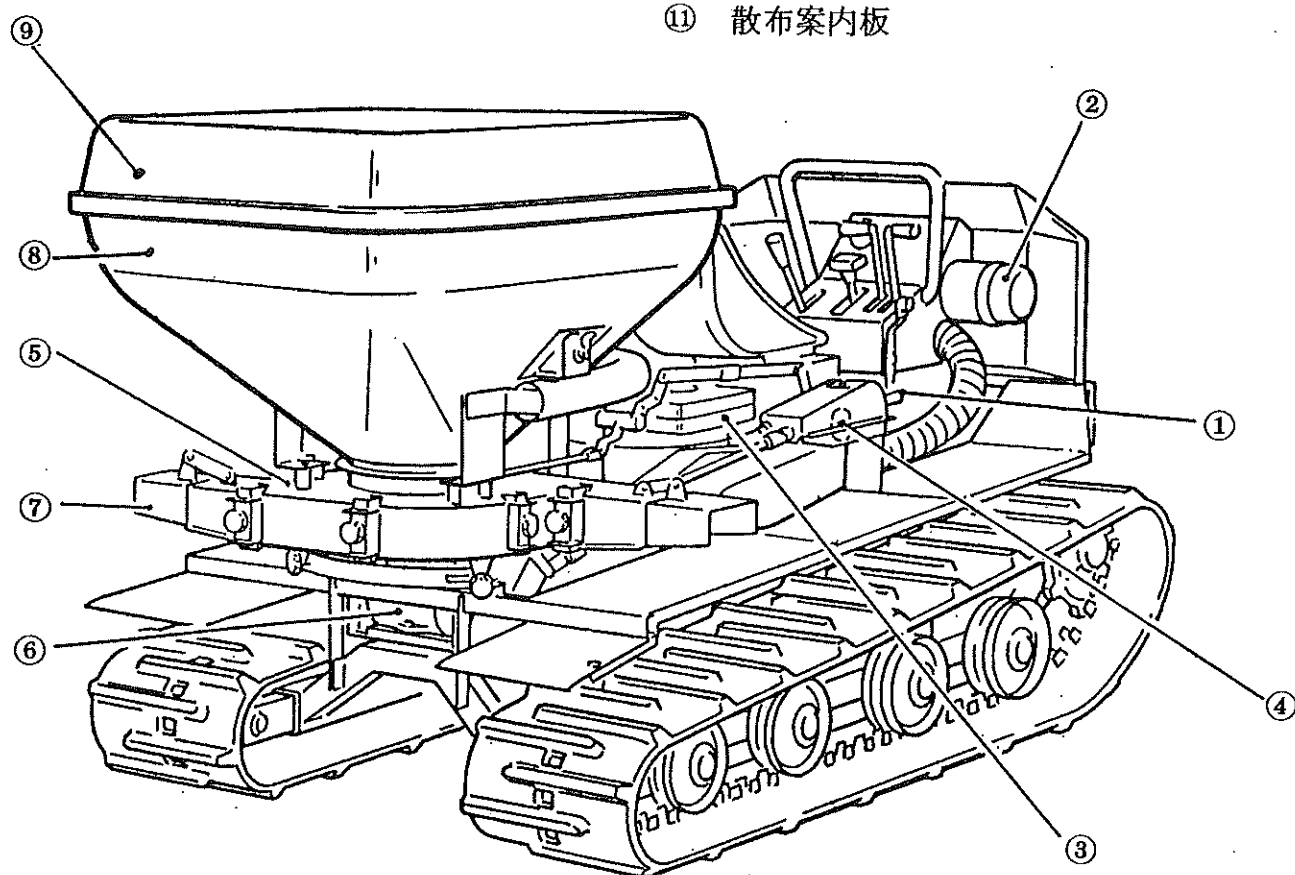
- ⑨ サイドクラッチレバー (右)
- ⑩ サイドクラッチレバー (左)
- ⑪ スロットルレバー
- ⑫ 燃料タンク
- ⑬ 燃料給油キャップ
- ⑭ ライトスイッチ
- ⑮ キースイッチ
- ⑯ アワーメーター
- ⑰ バッテリー
- ⑱ 前照灯
- ⑲ オイルランプ



- ① 散布クラッチレバー
- ② 第1エアクリーナー
- ③ 第2エアクリーナー
- ④ ガソリンフィルター

- ⑤ ブロワーケース
- ⑥ ギヤボックス
- ⑦ キャップ
- ⑧ ホッパー
- ⑨ 補助ホッパー (オプション)
- ⑩ ブロワー
- ⑪ 散布案内板

ブロワータイプ



スピナータイプ

エンジンをかける前の点検

点検は平坦な場所で本体を水平にし、エンジンを停めて行なってください。

○ ボルト・ナット類がゆるんでいると本機の寿命を著しく短くし、又本機損傷の原因となりますので、ゆるみがないか良くチェックしてください。

○ ガソリンの点検

使用ガソリン —— 無鉛ガソリン

タンク容量 —— 15 ℓ

燃料タンク上面のゲージを見て少ない場合は補給して下さい。

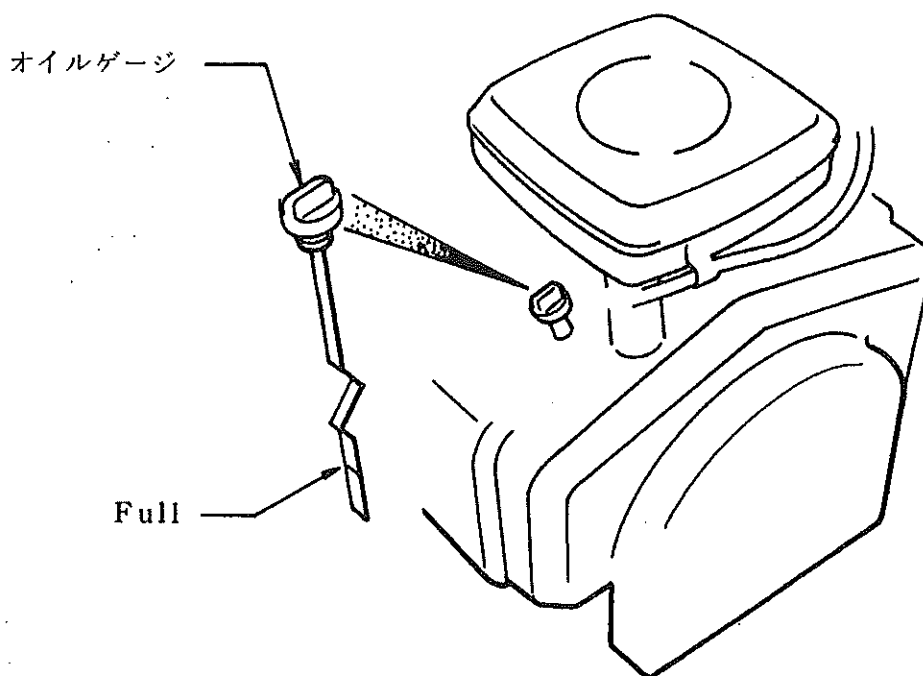
○ エンジンオイルの点検

オイルゲージを抜き先端のオイルを拭き取って再びゲージを一杯に差込んでから抜いて見てください。

オイルゲージの「FULL」の位置が適量です。不足の場合は補給してください。入れ過ぎた場合は適量まで排出してください。

(エンジンオイルは 10W-30、容量 1.4 ℓ)

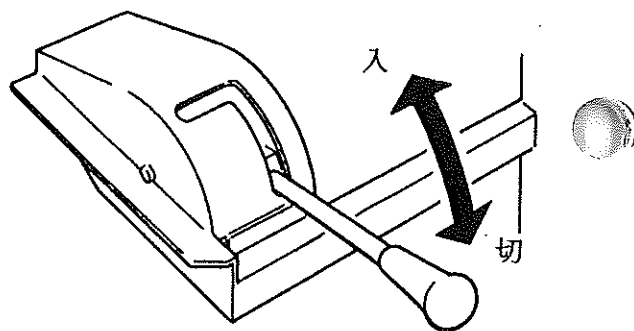
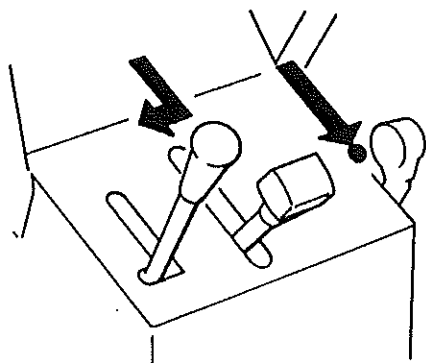
【注意】オイルフィルター交換時、オイルは1.6 ℓ入れて下さい。



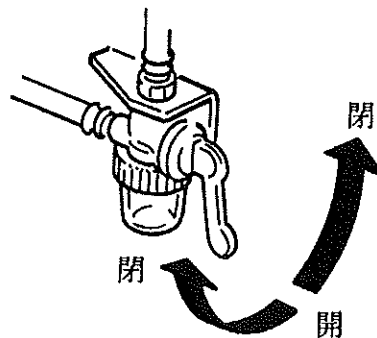
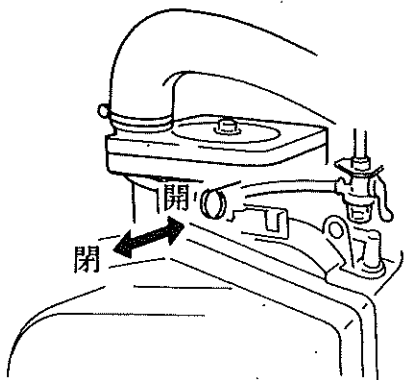
エンジンの始動と停止

■ 始動方法

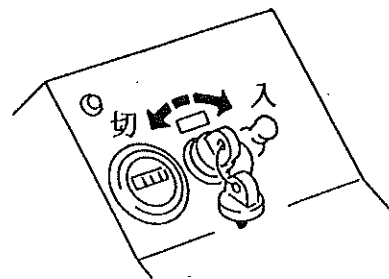
1. 走行クラッチレバーを「切」にし、チェンジレバーを中立にします。
2. 散布クラッチレバーを「切」にします。



3. 寒い時やエンジンのかかりにくい時にはチョークレバーを引きます。
4. 燃料バルブを開きます。



5. エンジンスイッチを「スタート」の位置へ廻します。始動しエンジンが暖まりましたらチョークを徐々に戻します。



■ 停 止

1. エンジンスイッチを「切」の位置にします。

運 転 操 作

■ 本機を発進させる場合

1. 運転は必ず運転席にすわり、周囲に危険がないか確認し操作してください。
2. スロットルレバーを（高）にしてください。
3. 変速レバーで速度を選びます。

本機は、前進4速、後進2速から速度を選択することができます。

	副 変 速	主 変 速		走 行
速 度	低 速	1（前進）	前進1速	1.8km/h
		2（前進）	2速	3.0km/h
		R（後進）	後進1速	1.8km/h
	高 速	1（前進）	3速	6.0km/h
		2（前進）	4速	10.0km/h
		R（後進）	後進2速	6.0km/h

まず、副変速レバーを低速又は、高速に入れます。

次に、主変速レバーを前進1,2又は、後進Rに入れます。

4. 走行クラッチを徐々に（入）にしますと、発進します。

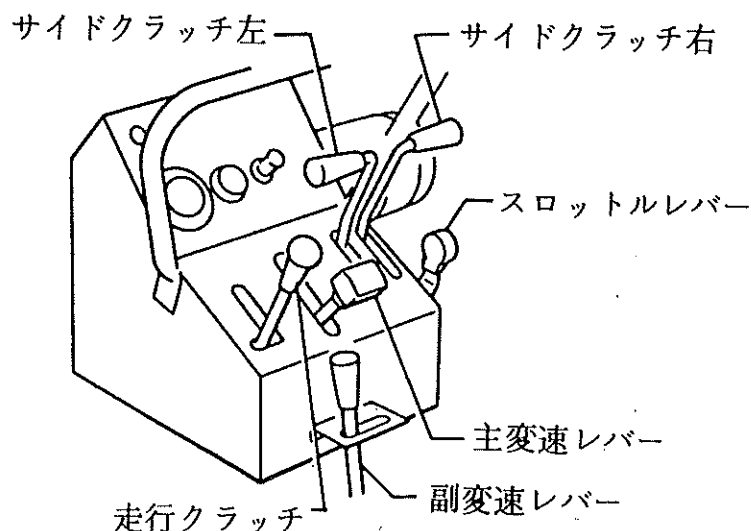
（急激な操作をしますと急発進し危険です！ 絶対に行なわないでください。）

5. 右、左へ曲る場合は曲りたい方向のサイドクラッチを手前に引いてください。その方向のクローラにブレーキがかかります。

両方同時に引くと両方のクローラにブレーキがかかります。

6. 停止の場合は、走行クラッチレバーを（切）にしてください。

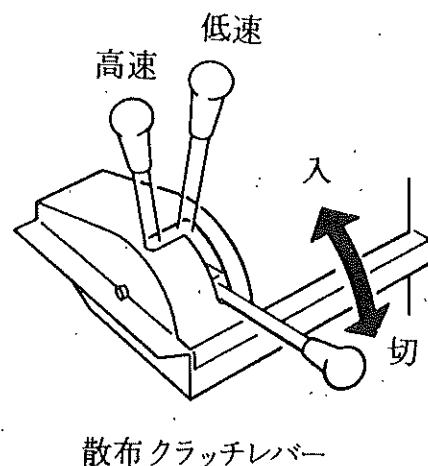
7. 本機にはライトが装備されています。必要に応じて点灯してください。



散 布 作 業

■ 融雪剤散布作業を行なう場合

1. シャッターを全閉（散布クラッチレバー^⑦）にし、ホッパーに融雪剤を入れます。
2. ブロータイプ使用時は散布クラッチレバーをまず低速に入れ、さらに高速へと入れます。スピナータイプ使用時は、粒状肥料は低速、その他融雪剤は高速で散布してください。（ブロータイプ⇔スピナータイプの切換は22ページ参照。）
3. 散布量は21ページの散布量曲線を参照して、シャッター開度を決めてください。

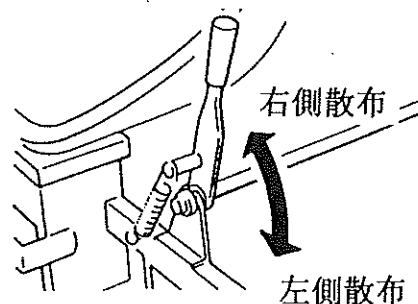
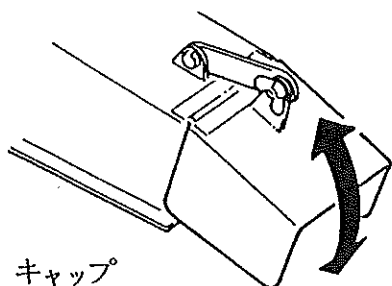


〔注 意〕

- ① 落下量は融雪剤の種類により変わりますので、実際の落下量を測定してシャッター開度を決めますとより正確な散布ができます。
- ② 本機のホッパ積載量は300 kgです。それ以上積載しますと走行ミッション、ホッパフレーム等に無理がかかり、機械損傷の原因となりますので絶対に積載しないでください。
- ③ 散布クラッチレバーはゆっくり操作してください。乱暴に扱いますと機械損傷の原因となります。

■ ブロータイプの散布作業

1. 散布方向を右又は、左に変えることができます。運転席左側の「切換レバー」で操作します。
2. 散布が終了したら融雪剤をブローケース内に残さない様にブローを空回転させ左右各々に排出してください。
3. ブロー及びブローケース等は消耗品となっておりますので、時々点検し、磨耗が進んでいたら、部品の交換をしてください。



保 守 ・ 点 検

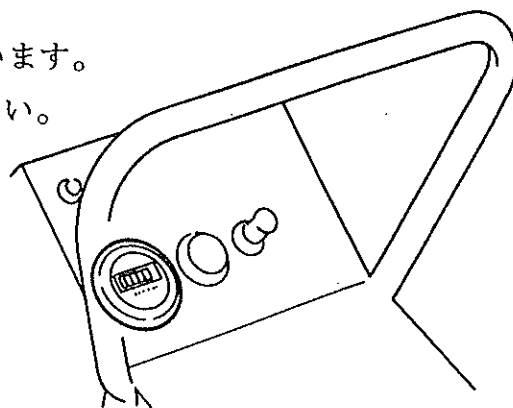
■ 日常点検

いつも安心して使用するためには毎日の点検・整備が必要です。
忘れずに自分自身で行なってください。

1. エンジンオイル	規定量入っているか オイルの洩れはないか
2. ガソリン	残量は十分か ガソリンの洩れはないか ガソリンフィルターに水がたまっていないか
3. 第1エアクリーナー 4. 第2エアクリーナー	汚れすぎていないか
5. 異常箇所	前日悪かった所
6. 各部の締付け	ボルト、ナットにゆるみはないか
7. 各種のレバー	作動は正常か
8. サイドクラッチ	クラッチ及びブレーキの効きは十分か サイドクラッチレバーの引きしろは適当か
9. ホッパー	ホッパー底に融雪剤が残っていないか ホッパー周辺の融雪剤を取除く
10. 走行ミッション 11. ギヤボックス（散布用）	オイルの洩れはないか 規定量入っているか

■ アワーメーター

本機には、アワーメーターが装備されています。
点検、清掃等の時間のめやすとしてください。



■ 定期点検

定期点検は安全と性能を維持する為にぜひ必要なことです。

指定された点検・整備は完全実施してください。

点 検 項 目			点 検 時 期 と 内 容
エ ン ジ ン	エンジンオイル	交 換	初回のみ 5 時間 以後運転 25 時間毎
	第 1 エアクリーナー エレメント	清 掃	毎日数回
		交 換	汚れが著しい場合は交換
	第 2 エアクリーナー ペーパーカートリッジ	清 掃	毎日
		交 換	汚れが著しい場合は交換
	スパークプラグ	清 掃	毎年シーズン始め
	燃料タンク	燃料抜き	毎年シーズン終り
		洗 浄	3 年毎
	燃料チューブ（ゴムホース）	交 換	3 年毎
	スロットルレバー	点 検	毎年シーズン始め
走 行 部	スロットルワイヤー	点 検	毎年シーズン始め
	クローラ	張り調整	毎年シーズン始め
	走行クラッチレバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	主変速レバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	副変速レバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	サイドクラッチレバー（右）	点 検	毎年シーズン終り
	サイドクラッチレバー（左）	点 検	毎年シーズン終り
	走行ミッションオイル	点 検	毎年シーズン終り
		交 換	毎年シーズン始め
そ の 他	V ベルト	点 検	毎年シーズン終り
	ギヤボックスオイル	交 換	毎年シーズン終り
	V ベルト（散布用 2 ケ所）	点 検	毎年シーズン終り
	バッテリー液	点 検	毎年シーズン始めと終り
	バッテリー	充 電	長期保管中は 1 ケ月に 1 回

点検・整備と調整のしかた

点検・調整は平坦な場所で必ずエンジンを停止して行ないます。

工具はシート下の工具箱にあります。点検・調整にはかかすことのできないものです。

■ エンジン

1. エンジンオイルの点検

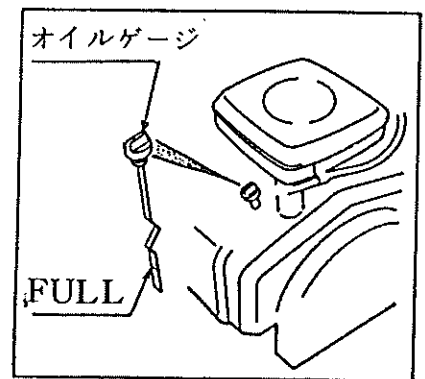
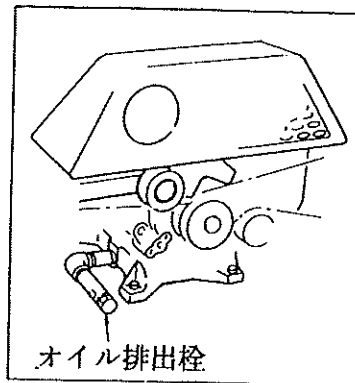
エンジンオイルの量はエンジンの始動前に点検し、少なくとも運転5時間毎に必ず点検補給してください。

2. エンジンオイルの交換

最初の運転5時間目に第1回のオイル交換をし、以後運転25時間毎にオイル交換をしてください。

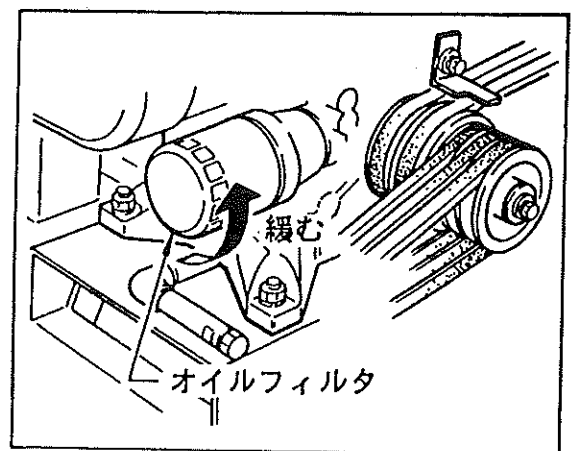
交換手順

- 1) オイルゲージをはずす。
- 2) 排出栓からオイルを抜く。
- 3) 排出栓を締める。
- 4) 新しいエンジンオイル
10W-30を注入。
(容量1.4ℓ)
- 5) オイルゲージを締める。



3. オイルフィルターの交換

オイルフィルターは運転100時間毎に交換してください。新しいフィルターを取付ける前にフィルターガasketに新しいオイルを少量塗ってから取付けてください。フィルターアダプターにガasketが当るまで手で軽く締め、さらに3/4回転締めてください。エンジンを始動させ、30秒程度運転後、エンジンを止めオイルレベルや漏れが無いかを点検してください。



【注意】

- オイルフィルター交換時、オイルは1.6ℓ入れてください。

3. 第1エアクリナーの清掃

ダストパンとエレメントは毎日清掃してください。

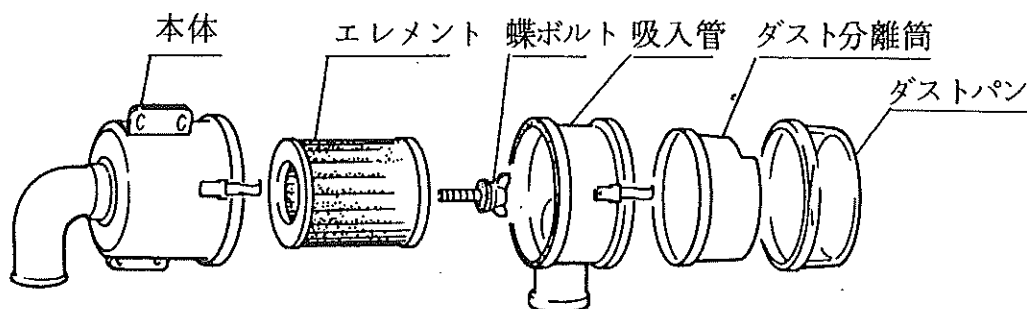
【注意】 埃の酷い条件下では1日数回早目に清掃してください。

- 1) ダストパンを外す。(ダスト分離筒付)
- 2) 吸入管を外す。
- 3) 蝶ボルトを外し、エレメントを外す。

■ダストパンの清掃—ダストパンよりダスト分離筒をはずし、埃を捨ててください。

■エレメントの清掃—平らな面の上でたたき、埃を落してください。

汚れの酷い場合は新品と交換してください。

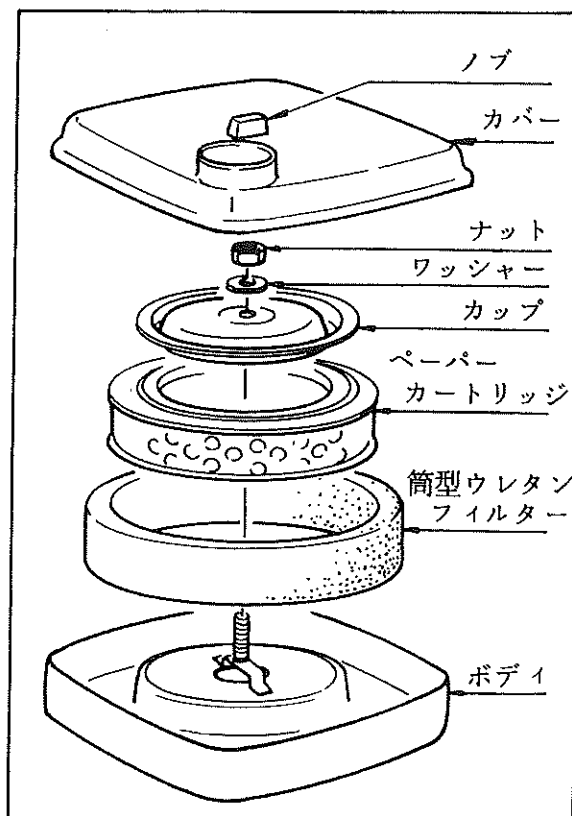


4. 第2エアークリーナーの定期清掃

オイルを含ませた筒型ウレタンフィルターは毎日下記の手順で清掃してください。

【注意】 埃の酷い条件下では早目に手入れを行なってください。

- 1) ノブとカバーを外す。
- 2) ペーパーカートリッジの周囲に取付けられた筒型ウレタンフィルターを引き上げ取外す。
- 3) a. ウレタンフィルターを灯油で洗浄する。
b. ウレタンフィルターをよく絞り、充分に乾燥させる。
c. 約30ccのエンジンオイルをウレタンフィルターの周囲に注ぎ、オイルが全体に付着するように絞る。



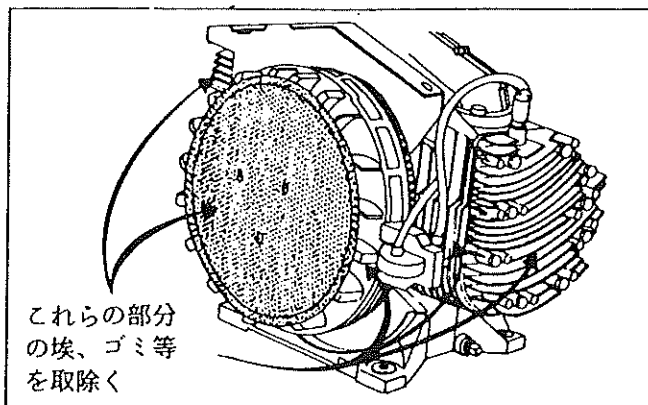
4) 筒型ウレタンフィルターをペーパーカートリッジの周囲に元通り取付ける。ウィングナット、カバー等を確実に締付ける。

ペーパーカートリッジは20時間毎に取外し、平らな面の上でたたき埃を落とすか、汚れの酷い場合は新品と交換する。

- 【注意】 1. ペーパーカートリッジにオイルを含ませないでください。また、高圧エアをかけないでください。
2. カップ上のワッシャーを紛失せぬように、また破れた場合には新品と交換してください。

5. 冷却システムの清掃

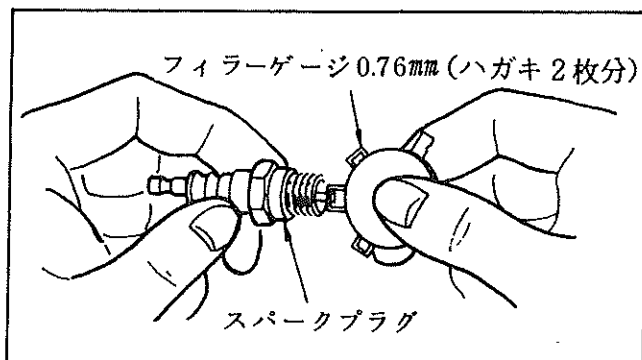
長時間のご使用により冷却フィンの間にはこりや異物がつまることがあります。そのまま作業を続けると酷いオーバー・ヒートを起してエンジンを痛めますのでブロワー・ハウジングを取りはずし、定期的に清掃してください。



6. スパークプラグの点検・清掃

運転100時間毎にカーボンを除去し、間隙を0.76ミリに調整してください。

- 【注意】 サンド・ブラスト・クリーナー（金剛砂吹つけ式クリーナー）はエンジン内部に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。



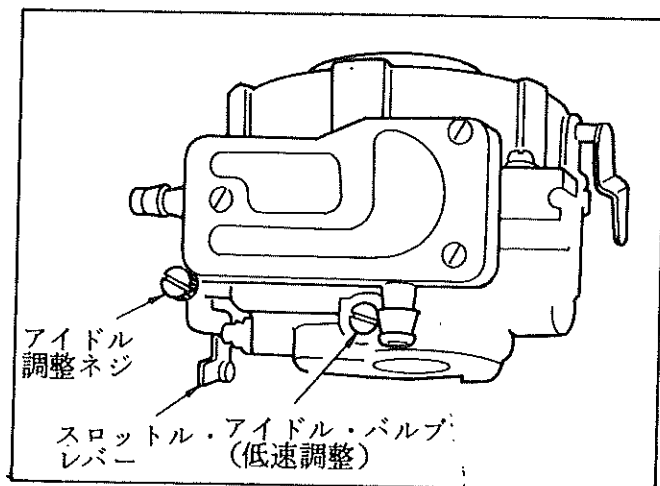
7. キャブレター調整

キャブレターの調整は、分解以外にも燃料・温度・高度・負荷等が変った場合、状況に応じた調整が必要であります。

1) 予備調整

アイドル・バルブを時計方向に回して軽く全閉し、再び $1\frac{1}{2}$ 回転だけ開きます。以上の予備調整が終ればエンジンを始動し、暖機運転を行ない、次の最終調整をします。

【注意】 キャブレターを調整する時は、必ずエアークリーナーを取付けて行なってください。



2) 最終調整

A. アイドル・バルブ調整 (低速調整)

エンジンを始動し、暖機運転後、作業機のスピードコントロールレバーを「低速」とする。キャブレターのスロットル・レバーを手でアイドルストップに当たるまで押さえ、アイドル調整ネジを回してアイドル回転数1600 rpmとする。スロットル、レバーを押えたまま、アイドル・バルブをゆっくりと時計方向に（稀薄）エンジンの回転がミスしたり、回転が落ちはじめるところまで回す。この位置から反時計方向に $3/4$ 回転アイドル・バルブを戻してください。

B. 加速テスト

作業機のコントロールレバーを「低速」から「高速」に操作してください。上記調整で十分な加速が得られます。もし、加速状態が不良であればアイドルバルブを約 $1/8$ 回転、反時計方向に回して再度加速テストをしてください。

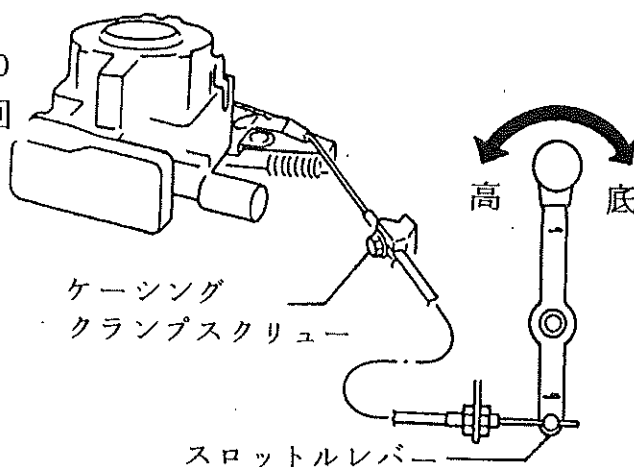
8. スロットルレバー調整

エンジンの常用運転は必ず1600～3500 rpm以内で行なってください。アイドル回転数は1600 rpmです。

【注意】 最高回転数は規定された回転数3500rpmより高回転にさせないでください。

作業機のスロットルレバーを「低速」に合わせる。この時、キャブレターのスロットルレバーがアイドル調整ネジに当たっていることが必要です。アイドル調整ネジに当たっていなければケーシングクランプスクリューを緩めコントロールケーシング及びワイヤーを動かして調整し、ケーシングクランプスクリューを締めてください。

【注意】 作業機のスロットルレバーが「低速」でアイドリング回転時、キャブレターのスロットルレバーが、必ずアイドル調整ネジに当たっていなければなりません（前図参照）



9. 調整値一覧

スパークプラグ・ギャップ	0.76 $\frac{m}{m}$
マグネット・エアーギャップ	0.25 ～ 0.36 $\frac{m}{m}$
バルブ・クリアランス	吸入 0.10 ～ 0.15 $\frac{m}{m}$
(バルブスプリング取付時・エンジン冷却時)	排気 0.18 ～ 0.23 $\frac{m}{m}$
スパークプラグ品種	チャンピオン RJ-12
	NGK B-2

【注意】 1. 正しい工具とエンジンに関する完全な知識をお持ちでない限り、大がかりなエンジン修理は行なわないようお願いします。
2. 修理や調整を行なう際、安全のためにバッテリーの（－）を必ず外してください。

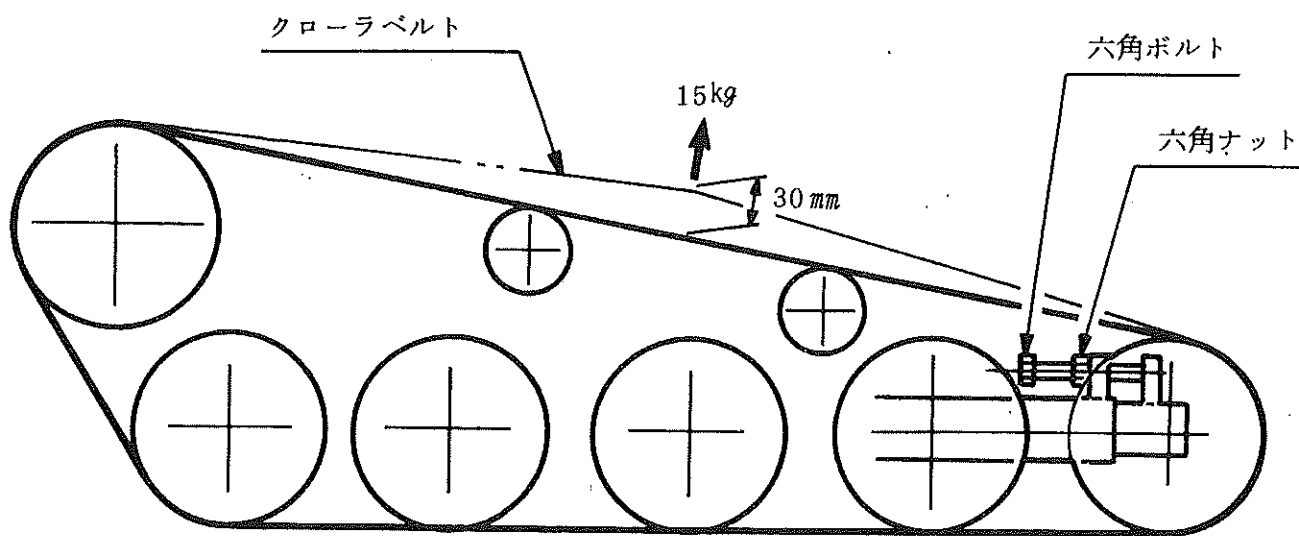
■ 本 体

1. クローラの張り調整

クローラの中央部をクローラベルトが張るまで持ち上げて（約 15 kg の力）その高さ（たわみ量）が 30 mm になるのが標準です。

この調整は六角ボルトの押し（張り）、引き（ゆるみ）で行ないます。六角ナットを緩め六角ボルトの押し又は引きで張りを調整した後は六角ナットを固く締め付けてください。

【注意】 強く張りすぎないようにします。

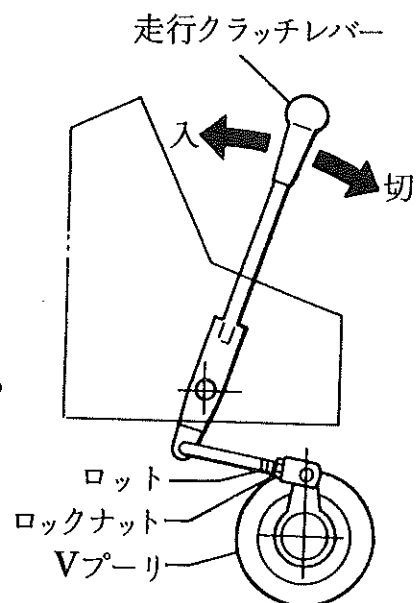


2. 走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーが「切」の状態では必ず走行が止まり、「入」の状態ではクラッチが入るようにします。

この場合レバーは完全に戻り、若干の遊びが必要です。

■ 調整方法 — ロットのネジでロットの長さを調整してください。



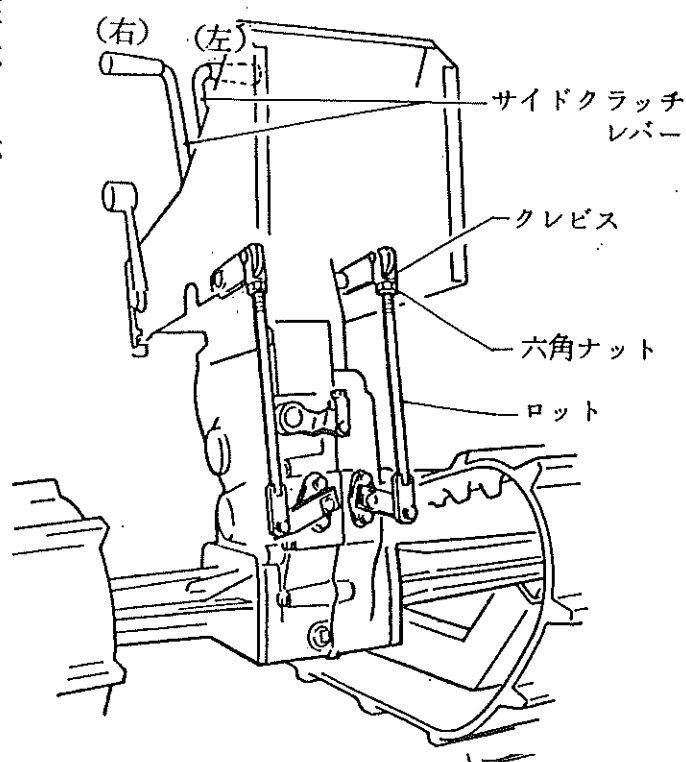
3. サイドクラッチレバー(右)(左)の調整
 サイドクラッチレバー(右)(左)を一杯引くとクラッチが切れてブレーキがかかりますが、この状態で長穴に引きしろがあることを確認してください。

レバーを戻した状態ではレバーに若干の遊びが必要です。

この調整は走行ミッションの前面にあるロットの長さを調節して行ないます。

(右)(左)のレバーが同じ位置になるよう調整してください。

ロットの長さは六角ナットをゆるめ、クレビスのネジで調節します。

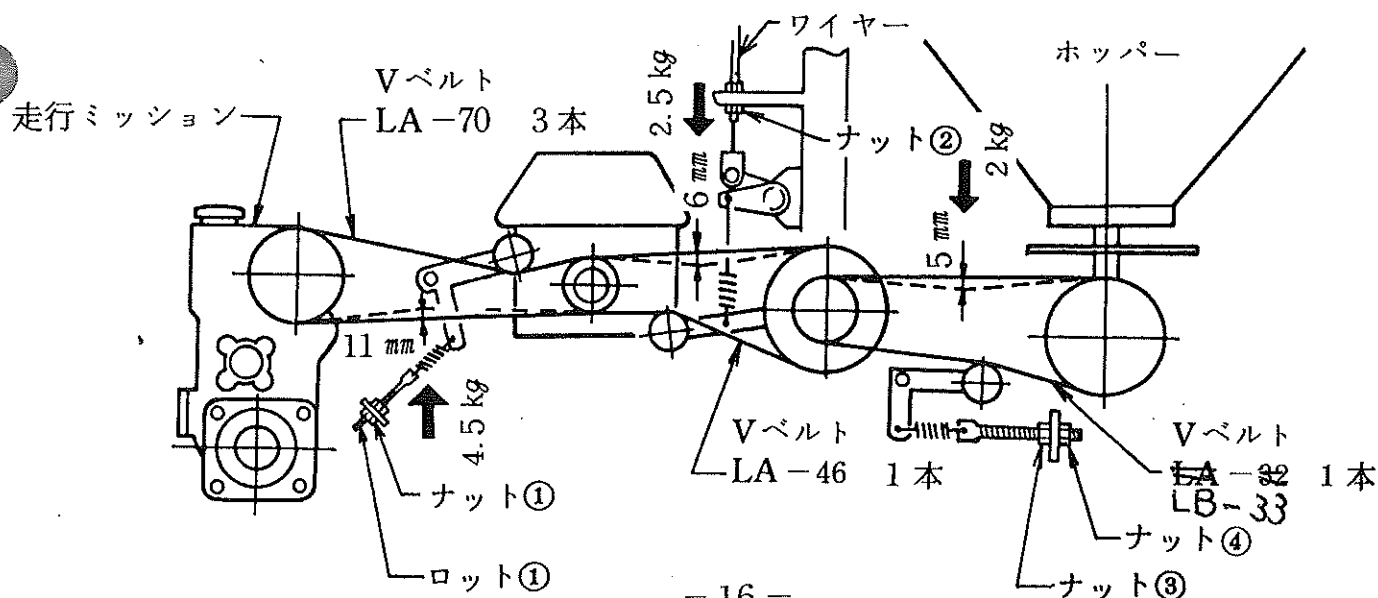


4. Vベルトの点検と調整

Vベルトの適正なたわみ量は下図の通りです。

■ Vベルトの張り調整

- 1) LA-70 ナット①でロット①を上下させ、張りを調整します。
調整後はナットを固く締めつけてください。
- 2) LA-46 ナット②を緩め、クレビスを上下させ、張りを調整します。
調整後はナット②を固く締めつけてください。
- 3) ~~LA-32~~ LB-33 ナット③を緩め、ナット④で張りを調整します。
調整後はナット③を固く締めつけてください。



5. 散布クラッチレバーの調整

散布クラッチレバーの (入) (切) 操作で確実にブローワーが回転・停止するよう調整します。

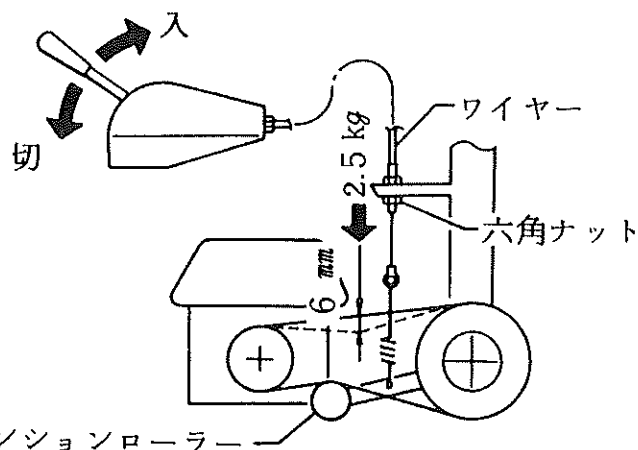
レバーが (入) の位置でテンションローラーがVベルトを張ります。

その時のたわみ量は図示の通り 2.5 kg の力で 6 mm が標準です。

この調整は六角ナットをゆるめ、ワイヤーの長さを調整します。

レバーが (切) の位置ではVベルトがスリップし、回転が停止しなければなりません。

Vベルトがゆるんでもスリップしない場合は、エンジンプーリ周りのテンショナーの押えを調整してください。調整後は六角ナットを固く締付けてください。



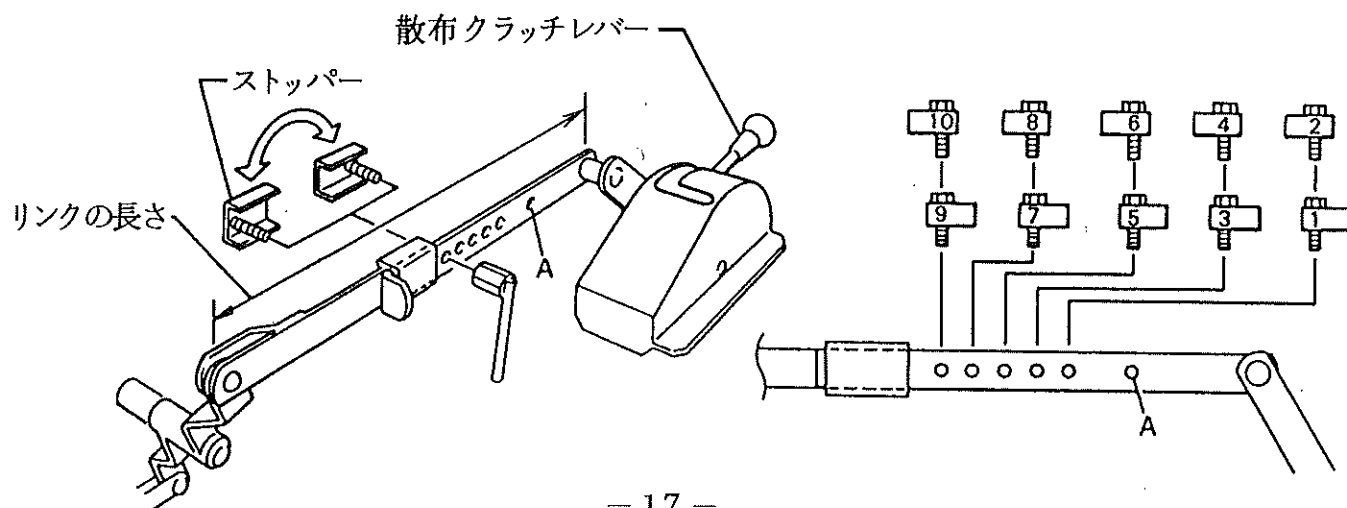
■ シャッター開度 (ストッパーの使い方)

○ シャッター開度はストッパーの位置で変更できます。

リンクには6個の穴がありストッパーを取りつける時の向きと位置で、シャッター開度を全閉から全開まで10段階に微調整できます。

○ Aの穴にストッパーを組みつけると(どちら向きでも)、シャッターは全閉状態となりレバーを操作してもシャッターは開きません。

○ シャッターのリンク取付部にも、5個の穴がありますが真中の穴を使用します。



7. 給油

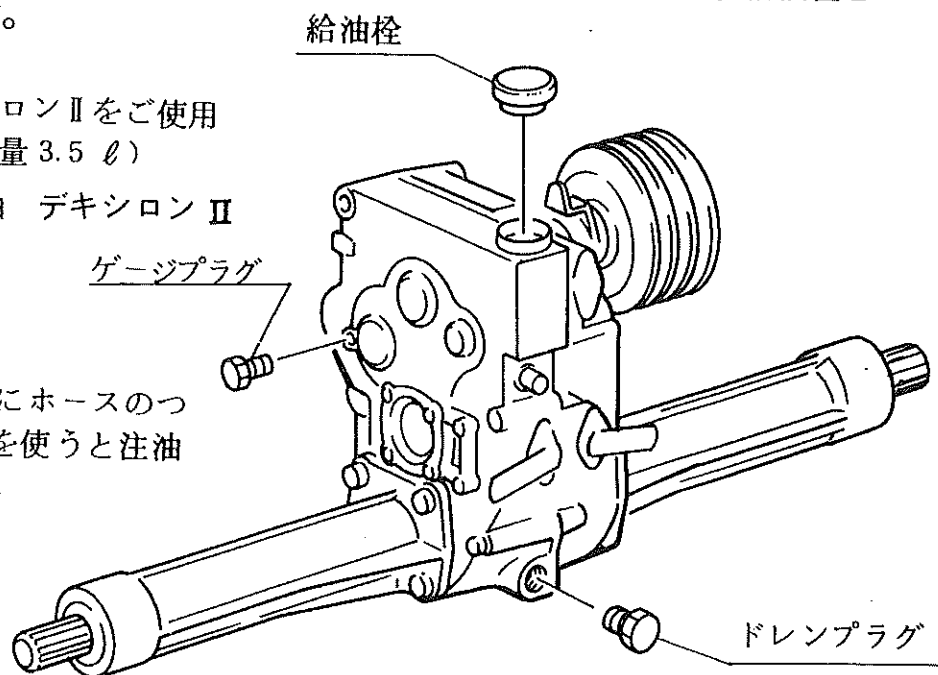
走行ミッションのオイル（トルコン用オイル）は、年1回（毎シーズン前）交換してください。交換手順は、ドレンプラグと給油栓を外し、オイルを抜いてからドレンプラグを締めます。

次にオイルゲージプラグを外し、オイルをゲージプラグまで入れ、給油栓とレベルプラグを締めます。

- オイルはデキシロンⅡをご使用ください。（適量 3.5 ℓ）

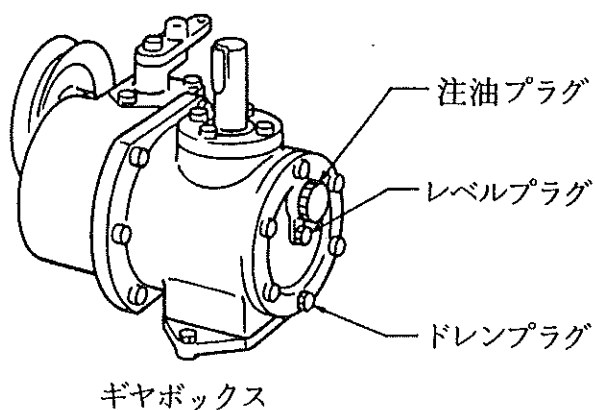
昭和シェル石油 デキシロンⅡ

- 注油の際は、先にホースのついたジョッキを使うと注油が楽に行えます。



8. ギヤボックスのオイル交換

- 1) 給油栓をはずす。
- 2) 排出栓をはずしオイルを抜く。
- 3) 排出栓を締める。
- 4) 新しいギヤオイルをゲージプラグまで入れる。
- 5) 給油栓を確実に締付ける。（ギヤオイル # 80 番、適量 0.9 ℓ）



長期保管について

1. ガソリン

- 1) 30日以上格納するときには、燃料タンクの底のドレンプラグを外し、燃料を完全に抜きます。
- 2) 燃料フィルターを外しホース内の燃料を抜きます。
- 3) エンジンをかけ、キャブレター内等の燃料がなくなって停止するまで回しておきます。

2. エンジンオイル

エンジンの暖かいうちに全部抜きとり、新しいオイルを規定量入れます。

3. 清 掃

- 1) シリンダーヘッドの冷却フィン、ブロー、ハウジングのほこりや異物を取り除きます。
- 2) 散布部のホッパー底に融雪剤など残さないよう清掃します。
- 3) エアークリーナーも清掃します。
- 4) 肥料、融雪剤が残っていると、サビ・腐食の原因となります。

4. ギヤオイル交換

ホッパー下のギヤボックスのオイルを抜き、新しいオイルを入れます。

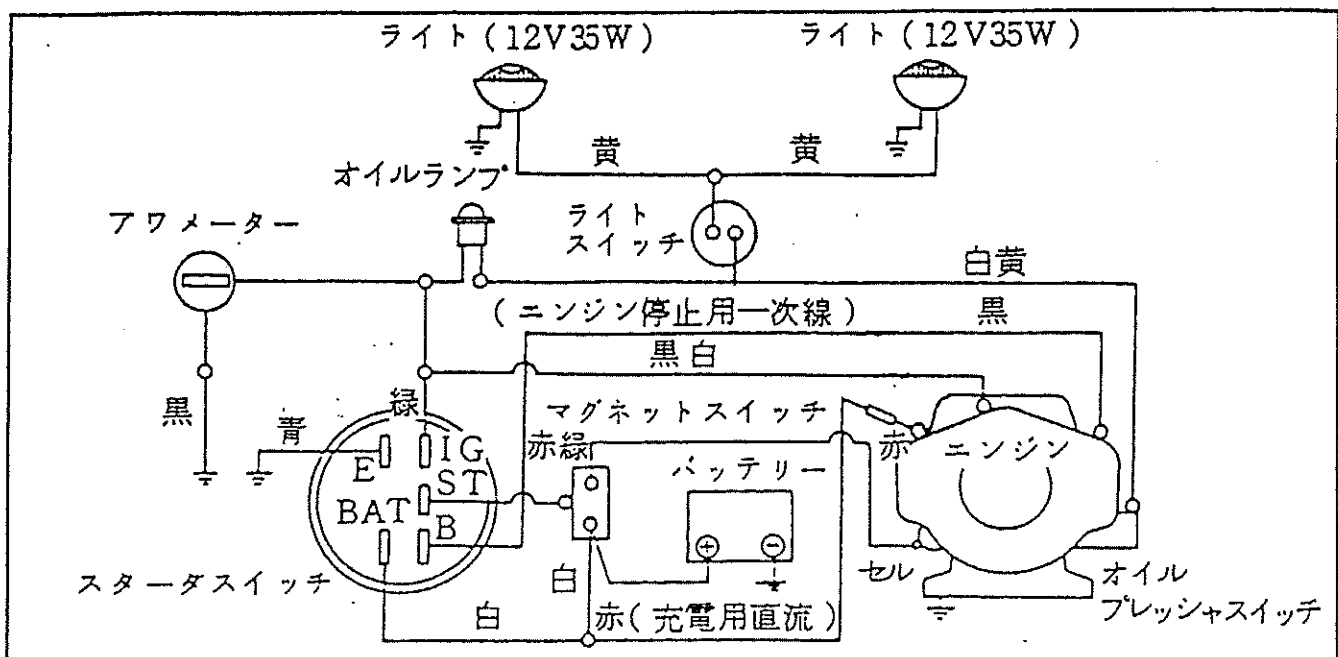
5. 給 油

各レバー類の支点部にオイルを給油してください。

6. 保管場所は、屋内の湿気、ほこりの少ないところに保管して、さらに覆いをかけてください。

7. バッテリーのケーブルを外しておきます。

電 気 配 線 図



性 能 ・ 諸 元 表

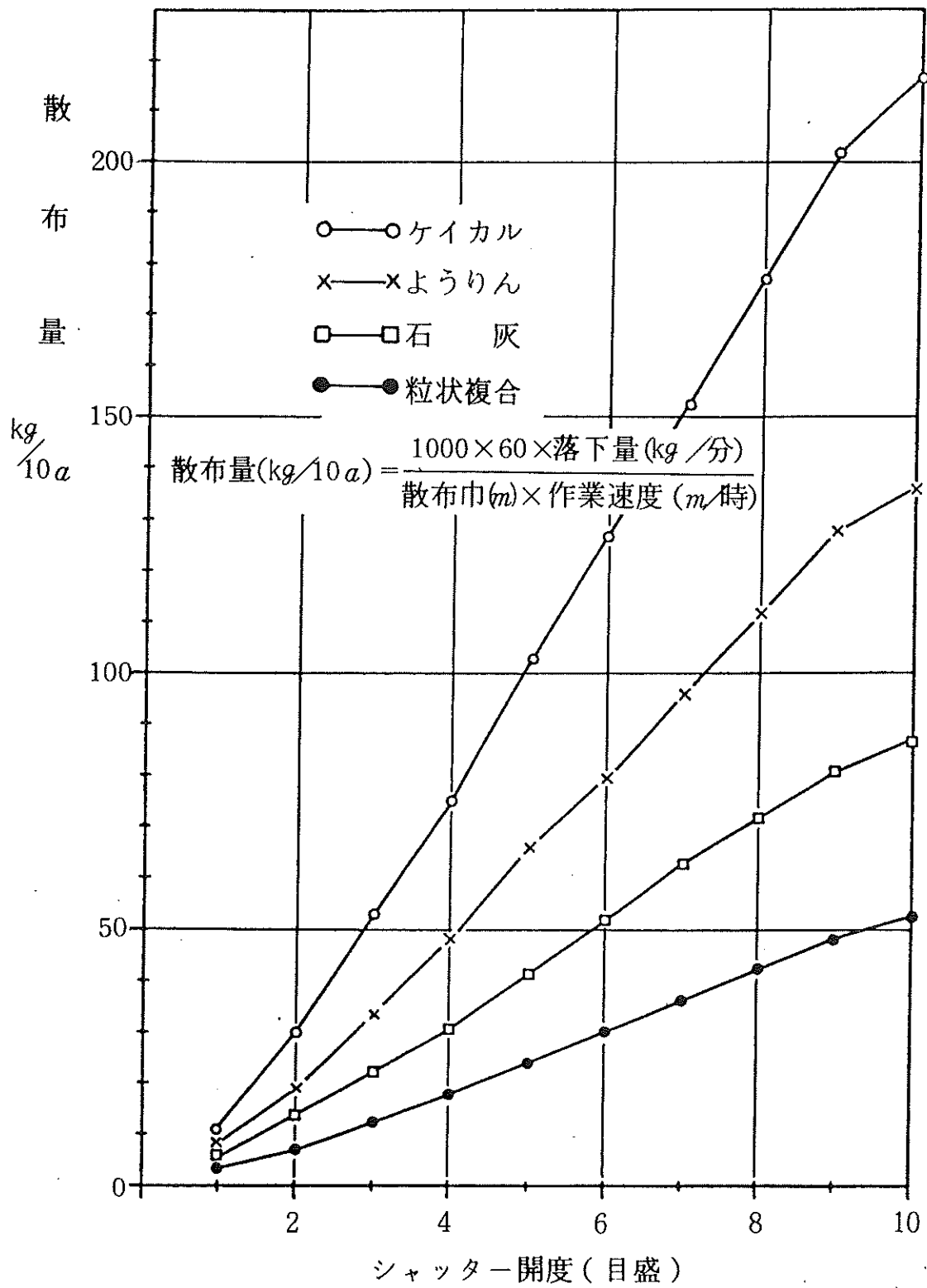
名 称		融 雪 剤 散 布 機
型 式		JUS 1820
性 能	走 行 速 度	前進 1速 1.8 km/h 2速 3.0 km/h 3速 6.0 km/h 4速 10.0 km/h 後進 1速 1.8 km/h 2速 6.0 km/h
	最 大 登 坂 角 度	20°
	最 小 回 転 半 径	1.4 m
	散 布 幅	スピンナー式 粉状 3～5 m 粒状 6～14 m ブロー式 粉状最大 20 m
エ ン ジ ン	型 式	B & S モデル 422447
	最 高 出 力	18 PS
	排 気 量	694 cc
	始 動 方 式	12V セルモーター
	エ ン ジ ン オ イ ル	10W-30 容 量 1.6ℓ (オイルフィルター込)
	燃 料	無鉛ガソリン タンク容量 15 ℓ
	ス パ ーク プ ラ グ	チャンピオン RI-12 (又は NGK B-2)
	バ ッ テ リ ー	NS 40 ZL (35 Ah)
機 体 仕 様	全 長	2,200 mm
	全 幅	1,340 mm
	全 高	1,240 mm
	重 量	480 kg
散 布 部	ホ ッ パ ー 容 量	200 ℓ (200 kg)
	スピンナー回転数	500 r. p. m
	ブロー回転数	1,100 r. p. m

保 証 に つ い て

お買い求めいただいた融雪剤散布機 JUS 1820は、納入日より1年間の保証がついております。

販売店より納入時にお渡ししました保証書は、アフターサービスをお受けいただくためにも大切に保存してください。保証期間中であっても、保証書のご提示がありませんと有償サービスをお願いすることになりますのでご注意ください。

散布量曲線



※条件 作業速度 高速2速(10km/h)
作業巾 粒状複合は14m その他は4m

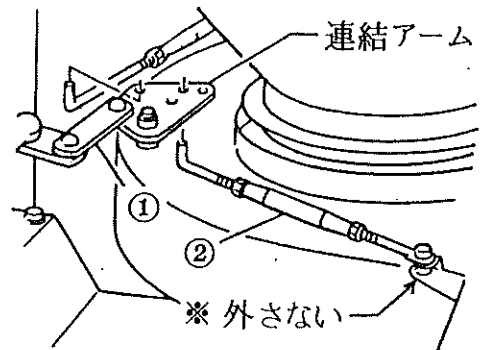
ブロータイプとスピナータイプの切り換え

下記にブロータイプよりスピナータイプへの切り換え手順を示します。

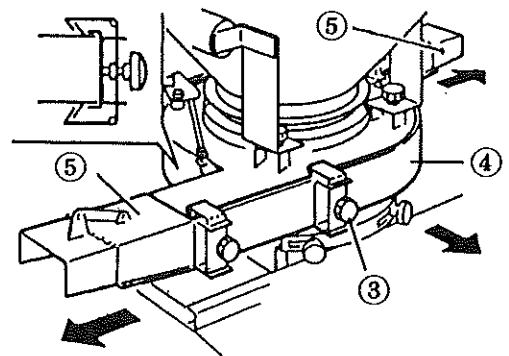
スピナータイプからブロータイプへの切り換えは逆手順で行なってください。

■ ブロータイプからスピナータイプの切り換え

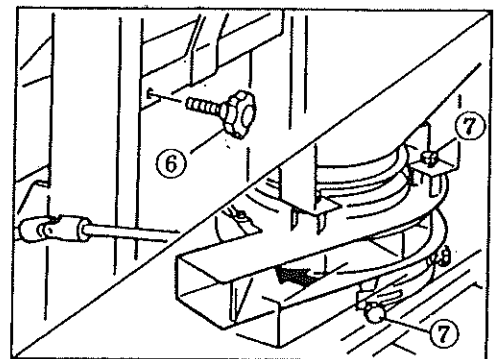
1. シャッター切替連結バー①、シャッター切替連結ロッド②を連結アームから外します。シャッター側はつけておいてください。



2. ノブボルト③をゆるめ（４個）、周側板（後）④、散布管（左右）⑤を外します。



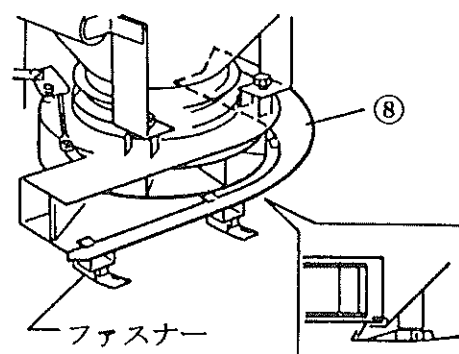
3. ノブボルト⑥をとり、ノブボルト⑦をゆるめ（４個）、ブローケーシングを時計回りに長穴いっぱいまで振り、ノブボルト⑦を固く締めます。
（ノブボルト⑥は、スピナータイプでは使用しません。）



4. 散布案内板⑧をブロワーケーシング下の板にはさみ込み、ファスナーで固定します。

(4ヶ所)

(散布案内板⑧は、ブロワータイプでは使用しません。)



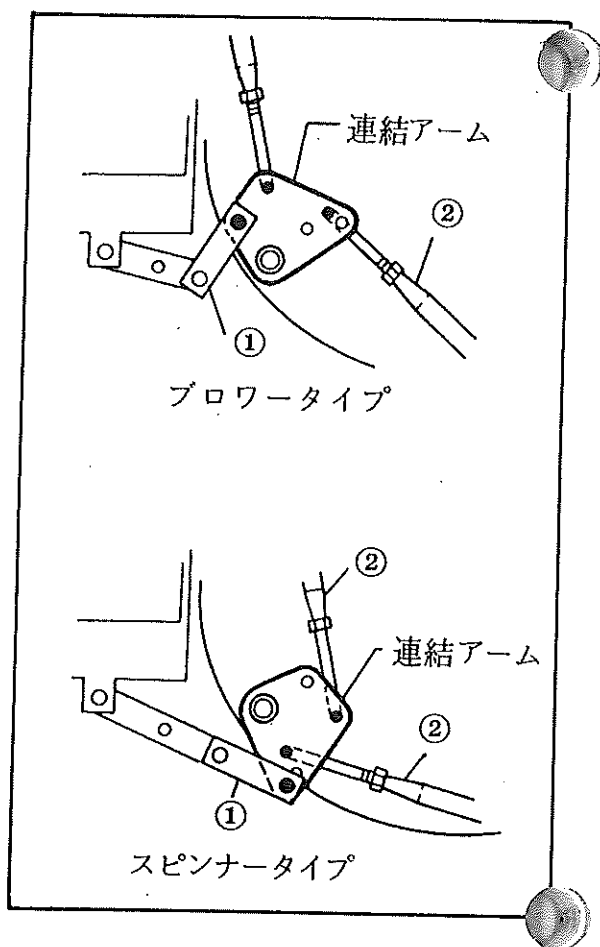
5. シャッター切替連結ロッド②をシャッター切替連結アームのスピナータイプの穴に、組付けます。

スピナータイプの時、切替レバーは、使用しません。

6. ノブボルトやファスナー等の締付けを確認し、ブロワーを手で回し、干渉のないことを確認してください。

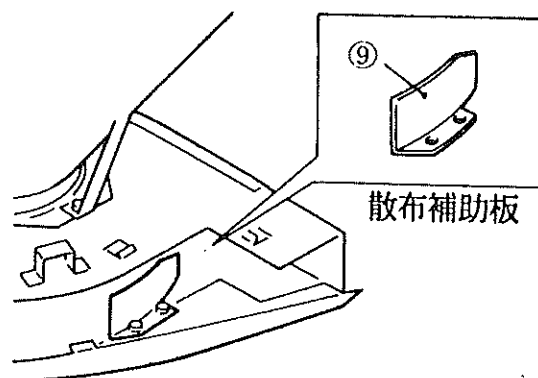
7. 散布作業でブロワータイプは粉状のみの散布に使用してください。その他の融雪剤はスピナータイプで使用してください。

又、粒状肥料散布の場合は散布案内板に散布補助板⑨の部品を右図の様に取付けて、散布クラッチレバー低速で散布してください。



【注 意】

必ずエンジンを切ってから、作業してください。



調整

S-900205A



本社・営業本部 066 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
 本州営業統括部 307-02 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1
 TEL 0285-49-1400 FAX 0285-49-1410
 千歳センター 066 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
 TEL 0123-26-1126 FAX 0123-23-0517
 関東センター 307-02 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1
 TEL 0285-49-1430 FAX 0285-49-1440
 札幌営業所 066 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
 旭川営業所 070 旭川市神楽 4 条 9 丁目
 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
 豊富営業所 098-41 天塩郡豊富町字上サロベツ 1191 番地
 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
 浜頓別出張所 098-57 枝幸郡浜頓別町字智福ホクレン宗谷機械センター内
 TEL 01634-2-3177 FAX 01634-2-4118
 帯広営業所 080-24 帯広市西 22 条北 1 丁目 12 番地
 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
 北見営業所 090 北見市小泉 3 0 2
 TEL 0157-24-3880 FAX 0157-61-1344
 中標津営業所 086-11 標津郡中標津町北町 2 丁目 16 番 2
 TEL 01537-2-2624 FAX 01537-3-2540
 盛岡営業所 020-01 岩手県盛岡市みたけ 2 丁目 4 番 7 号
 TEL 0196-41-4811 FAX 0196-41-5529
 青森出張所 034 青森県十和田市東 12 番町 18 番 31 号
 TEL 0176-22-9151 FAX 0176-22-9152
 仙台営業所 985 宮城県多賀城市町前 2 丁目 87 番地
 TEL 022-367-4573 FAX 022-367-4846
 関東営業所 307-02 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1
 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
 東関東出張所 301 茨城県竜ヶ崎市南中島町 112-6 高島ビル 1 F
 TEL 0297-66-5911 FAX 0297-66-5436
 前橋出張所 371 群馬県前橋市総社町総社 1 0 7 0
 TEL 0272-53-8536 FAX 0272-53-8796
 名古屋営業所 480-01 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷 191
 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
 松本出張所 399-65 長野県松本市大字芳川村井町高畑 942-2
 TEL 0263-58-2850 FAX 0263-58-1195
 岡山営業所 700 岡山県岡山市下中野 704-103 番地
 TEL 0862-43-1147 FAX 0862-43-1269
 熊本営業所 862 熊本県熊本市長嶺町 2 2 5 5 - 4 2 9
 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
 鳥栖出張所 841 佐賀県鳥栖市真木町字長田 1764-1
 TEL 0942-85-3717 FAX 0942-85-3726
 南九州営業所 885 宮崎県都城市都北町 3 5 3 7 - 1
 TEL 0986-38-1045 FAX 0986-38-4644